

社会資本整備総合交付金

無電柱化による災害に強く安全で快適なみちづくり(無電柱化推進計画支援)

事後評価資料

令和4年12月

仙台市



無電柱化による災害に強く安全で快適なみちづくり(無電柱化推進計画支援)

宮沢根白石線ほか1線みやざわねのしろいしせん (舟丁工区)せん ふなちょうこうく

整備前



整備中



(都) 宮沢根白石線を無電柱化することで、災害時において救援物資等を円滑に輸送できる道路機能を確保する。また、都市景観の向上と観光振興の観点から、多くの来訪者が集まる賑わい道路や歴史的・文化的価値を有する道路として仙台市無電柱化推進計画に位置づける路線についても、無電柱化を推進する。

※令和2年度以降は「無電柱化推進事業費補助」にて引き続き実施する。

社会資本総合整備計画 事後評価書

計画の名称	無電柱化による災害に強く安全で快適なみちづくり（無電柱化推進計画支援）												
計画の期間	平成31年度～令和03年度（3年間）								重点配分対象の該当	○			
交付対象	仙台市												
計画の目標	<p>都市計画道路をはじめとした骨格幹線道路については、災害時も含めた人流・物流などの都市活動を支える道路ネットワークとしていく必要があり、道路の輸送機能確保の観点から無電柱化を推進する。</p> <p>その中において本計画では、骨格幹線道路網を形成し、国道286号（1次緊急輸送道路）と宮城県広域防災拠点のアクセスルートとなる（都）宮沢根白石線を無電柱化することで、災害時において傷病者や救援物資等を円滑に輸送できる道路機能を確保する。</p> <p>また、骨格幹線道路以外でも、都市景観の向上と観光振興の観点から、多くの来訪者が集まる賑わい道路や歴史的・文化的価値を有する道路として仙台市無電柱化推進計画に位置づける路線についても、無電柱化を推進する。</p>												
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	1,249	A	1,249	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C／（A+B+C+D）	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 (H31当初)	中間目標値 (-)	最終目標値 (R3末)
1	・骨格幹線道路における無電柱化率を10%（H31）から11%（R3）に増加 ※ 定義については、備考欄参照 無電柱化率 = 無電柱化された骨格幹線道路の延長 / 骨格幹線道路の総延長	10%	%	11%
2	・青葉山線（芭蕉の辻）における無電柱化率を0%（H31）から100%（R3）に増加 ※ 定義については、備考欄参照 無電柱化率 = 無電柱化された青葉山線（芭蕉の辻）の延長 / 青葉山線（芭蕉の辻）の無電柱化対象延長	0%	%	100%

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-	避難確保計画の策定	避難行動要支援者名簿の提供
（※1）算定式の無電柱化された骨格幹線道路の延長は、無電柱化が実施された道路の区間延長であり、その区間に橋梁などの立体部がある場合はその部分を含む。（電線共同溝等の整備延べ延長ではない。）（※2）当初現況値は直轄国道の無電柱化された道路の区間延長を含む。（※3）最終目標値は本計画の要素事業のほか、社会資本整備総合交付金の整備計画で実施する（都）宮沢根白石線（南鍛冶町工区）の区間延長（L=0.8km）を含む。														

A 基幹事業																				
基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
												H31	R02	R03	R04	R05				
一体的に実施することにより期待される効果																				
備考																				
道路事業	A01-001	街路	一般	仙台市	直接	仙台市	S街路	新設	(都)宮沢根白石線ほか 1線(舟丁工区)	L=0.27km	仙台市	■	■	■			1,249		—	
	A01-002	道路	一般	仙台市	直接	仙台市	市町村 道	改築	(市)青葉山線(芭蕉の辻)	L=0.2km	仙台市	■	■	■			0		—	
											小計						1,249			
											合計						1,249			

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制

本市独自に実施

事後評価の実施時期

令和4年度

公表の方法

仙台市のホームページによる

○事業効果の発現状況

定量的指標に関連する
交付対象事業の効果の発現状況

・令和2年度から無電柱化推進事業費補助へ移行となったことから、当該整備計画において整備効果の発現までは至らなかったが、無電柱化推進事業費補助により継続して事業を推進し、早期効果発現を図る。

定量的指標以外の交付対象事業の
効果の発現状況（必要に応じて記述）

○特記事項（今後の方針等）

・地元調整に時間を要したことから、当該整備計画において事業が完了せず効果発現まで至らなかったが、令和2年度に移行した無電柱化推進事業費補助において完了に向けて事業を推進する。

○目標値の達成状況		
番号	指標（略称）	
	目標値／実績値	目標値と実績値に差が出た要因
1	最終目標値	11%
	最終実績値	10%
・骨格幹線道路における無電柱化率を10%（H31）から11%（R3）に増加 地元調整に時間を要したことから、当該整備計画において事業が完了せず効果発現まで至らなかったため。		
2	最終目標値	100%
	最終実績値	0%
・青葉山線（芭蕉の辻）における無電柱化率を0%（H31）から100%（R3）に増加 地元および関係機関との調整に時間を要したことから、当該整備計画において事業が完了せず効果発現まで至らなかったため。		